

奄美市立赤木名中学校公開研究会



研究主題

自ら考え、共に学び合う生徒の育成
～学び合う活動と振り返りの時間の充実を通して～



めざす生徒像

- ・主体的に考え、判断し、行動できる生徒
- ・互いのよさを認め、協力して学び合える生徒

【生徒の実態】

- 学習への興味・関心が低い
- 深い学びができていない
- 自己有用感が低い

研究仮説

仮説（赤中スタンダードの取組へ）

学び合う活動と振り返りの時間の充実を核とした授業改善を図ることで、生徒が自ら考え、共に学び合うよさを実感でき、少しでも学力向上につながるのではないだろうか。

仮説（赤中ライフチャレンジの取組へ）

自己有用感を高める取組を充実させることで、自ら考え、共に学び合う土台となる受容的な雰囲気生まれるのではないだろうか。

研究の実際

(1) 目標の明確化

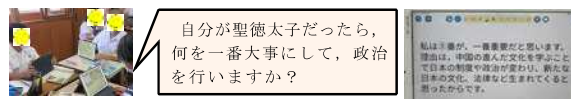
ア ICT機器の活用 ～学習への意欲や関心を引き出すために～
イ 生活との結びつき ～生活と授業はつながっている実感をも～

(2) 学び合う活動の充実

ア 意図的・計画的な学習形態の設定



- 【個】 【ペア・グループ】 【全体】 【個】
- イ 思考を深める発展や助言の工夫
- 1 解釈 これはどんな意味かな。
 - 2 類推 これまでの学習から、どんなことが言えそうかな。
 - 3 比較 比べてみて、違いはどこかな。
 - 4 転換 ○○の立場になって考えたらどうなるかな。
 - 5 統合 これまでの意見をまとめてみると、どうなるかな。
- (大島の教育 pamphlet 1より)



(3) 振り返りの時間の充実

「理由をつけて振り返り」と名付けて各教科で共通して実践している。

- ◎ 振り返りの内容についての共通実践
- (ア) 学習内容に関する振り返りを実施している。
 - (イ) 学びの姿勢に関する振り返りを実施している。
 - (ウ) 振り返りシート（ロイノート版と紙媒体版）保存を行い、学習後の評価につなげている。

(4) 自己有用感を高める取組

①ありがとうメッセージ～お互いのよさに気づき、認め合う～



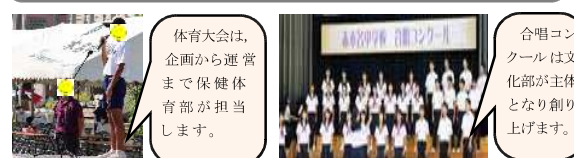
【教師から生徒へのメッセージ】 【生徒同士によるメッセージ】
「ありがとうがあふれる赤木名中学校」をスローガンに
お互いのよさを認め合う活動を実践している。

②日記の充実活用～生徒の心に寄り添い、賞賛する～

「生徒の心に寄り添う」を合い言葉に教師の約束事

- ① 受容の姿勢で、寄り添うコメントを書きましょう。
- ② 担任だけでなく、学年部全員で取り組みましょう。
- ③ 内容だけでなく、日記の書き方も褒めながら豊かな表現ができるようにアドバイスしましょう。

③生徒が創る学校行事～認められた満足感、達成感をもつ～



公開研究会の様子

全体会 I

【開会のあいさつ】



大島教育事務所
溜 清弘 所長

奄美市教育委員会
村田達治教育長



【研究発表】

奄美市立赤木名中学校
針原謙一 教諭

参加された先生方からの感想

- ・ 分かりやすくまとめたリーフレットで、自分の学校でもすぐに活用できるものになっていました。また、赤木名中学校の研究は、「講義型」授業の改善の参考になりました。持ち帰って職員に還元していこうと思います。
- ・ 個やグループ等の学習形態の流れが確立しており、タブレットを活用して学び合う姿が素晴らしいと思いました。
- ・ 基本的なことを中心に丁寧にまとめ、大切なことを全教科で共通実践している研究だと思いました。
- ・ 生徒の雰囲気がとても良く、赤中の生徒は素晴らしいと思いました。日頃からの言葉かけの成果だと思いました。
- ・ 授業の姿から自己有用感の向上が見られ、先生方が一丸となって生徒たちの心に寄り添っていることが伝わりました。

公開授業および教科別分科会



【保健体育科公開授業】
田畑克教 教諭



保健体育科分科会



【国語科公開授業】
馬庭大輔 教諭



国語科分科会



【英語科公開授業】
前田琴音 教諭・津原康 教諭



英語科分科会

全体会 II

【指導講話】



大島教育事務所
宮里英樹 課長



【閉会のあいさつ】

奄美市立赤木名中学校
森真里子 校長